

地域ケア科の歩み

太田 龍一

キーワード：在宅医療・訪問診療の質向上；多職種連携の推進；医療職教育体制の向上

(雲南市立病院医学雑誌 2019; 16(1): 44-46)

地域ケア科の歴史

雲南市における地域包括ケアの構築において、病院と地域のつなぎ手となる医師の必要性が高まるなか、2016年4月、雲南市立病院に訪問診療を含めた病院と地域との繋がりの強化を目的で作られた。地域ケア科医師として、笠芳紀、太田龍一が医師として配属された。医師2名体制の中、2016年8月より、院内、医師会の協力をいただき、訪問診療を開始し、2016年9月、雲南市の末期担癌患者さんが雲南市立病院からの正式な初の在宅看取りとなった。その後、担癌患者、当院通院中の患者に対して、訪問診療並びに在宅看取りを行っている。

今後、家庭医・総合診療医のニーズが高まる中、その教育システムの構築が重要となる。「教育とチャレンジがある病院には医師が集まる」と言われるように、医学教育は医師確保の根幹であり、各地で医学教育が医師確保に繋がっている。地域ケア科では医師・看護師を含めた医療職の医学教育の向上を目指し、総合診療を中心として医学教育を展開し、現在、多くの研修生が訪れており、かれらのモチベーションは高い。

当市は医療的側面からも、課題先進地域であり、医学教育の充実による当院の働き場所としての魅力は大きくなると考える。2019年4月より、坂口公太が雲南市立病院総合診療研修プログラムの初の練修医として、雲南市立病院へ赴任し2019年9月現在、医師3人、事務員1人で活動を展開している。

地域ケア科のミッションとビジョン

地域ケア科のビジョン：

雲南市民が健康的な生活をし、自分らしい暮らしを最期まで送れること

地域ケア科のミッション：

1. 雲南市における在宅医療の質向上
2. 雲南市独自の地域包括ケアシステムの構築
3. 雲南市独自の多職種連携の推進
4. 雲南市での医療職教育体制の向上
5. 雲南市の医療従事者の学術的活動のサポート

雲南市における在宅医療の質向上

①訪問診療の充実：

現在、訪問診療は在宅看取りをメインで行っており、定期訪問診療患者数は多くない。今後、当院からの訪問診療について、雲南医師会の理解を頂きながら、出前講座や市役所とのタイアップの元、情報提供をおこない、定期訪問数の増加を行う。

②在宅医療のエビデンス蓄積：

在宅医療における患者の生活の質（quality of life, QOL）や「病院から在宅」「在宅から病院」といった流れを横断的に研究し、安心ある在宅医療を推進・構築するための多様化に対応できる在宅医療モデルの構築を目指すためのエビデンスを蓄積する。

③訪問介護士の活躍による訪問診療・訪問看護の負担軽減：

在宅医療では多職種が関わることが一般的になって

雲南市立病院内科、同地域ケア科、同地域総合診療科

著者連絡先：太田龍一 雲南市立病院内科、同地域ケア科〔〒699-1221 雲南市大東町飯田96-1〕

E-mail: hospital-soumu@city.unnan.shimane.jp

いる。しかし、実態は、職種間の軋轢やヒエラルキーの形成による非効率化が起こっている。医師をトップとするヒエラルキーの中で、最も圧力を受けているのが訪問看護師である。

彼らが我々の活動を支持してくれることによって、それが住民に伝わり、最終的には病院の評判や信頼につながると考える。

雲南市独自の地域包括ケアの構築

①雲南市民へのadvanced care planningに関する情報提供と保健師との健康増進活動での協働：

現在、出前講座の一環として、地域住民へのadvanced care planningの話を行い、住民の方々が自分の最期について考える機会を提供している。その中で、いかに健康に生きることにに関する情報提供も行っている。地域ケア科のadvanced care planningまたは慢性疾患の管理などの情報提供を行い、その場で保健師に特定健診に関する情報提供も行う。それによって特定健診の受診率上昇を目指し、要精査の方に対して特定保健指導を行い、そのまま病院受診までつなげる。病院受診まで繋がることによるヘルスポロモーションのエビデンスは揃っているため、市役所と病院双方にとって有益であると考えます。

雲南市独自の多職種連携の推進

①地域多職種のコンピテンシー作成と浸透：

多職種が本当の意味で連携を図るには、雲南市立病院並びに雲南地域におけるそれぞれの職種ができることを理解し合うことが重要であり、それによる本当の意味での多職種連携（transdisciplinary team）の構築が可能であると考えます。現在、当科では、雲南市立病院看護師のクリニカルラダーの作成と訪問看護師と訪問看護師の役割の違いについての研究を進めており、今

年中に結果が出る予定にしている。

雲南市での医療職教育体制の向上

①家庭医・総合診療医育成の土壌形成：

1) 雲南総合診療勉強会

1ヶ月に1～2回のペースで、家庭医療のコンピテンシーを取り上げた症例検討会を行っている。参加者は医学生、医師、看護師、訪問看護師、ケアマネージャーで行っている。当院の図書室を使い、毎回10人程度の参加者がいる。多職種の参加により、多職種連携の学びにもつながっており、勉強会後の振り返りの中でも彼らが、臨床推論、家庭医療概念、多職種連携に学びを深めていることがわかる。

2) クリニカルラウンドへの医学生・研修医・看護師の定期参加

地域ケア科で行っている土・日曜日の朝の回診に医学生、研修医・看護師に参加してもらい、病歴・身体所見の重要性とその面白さを伝えることによって、家庭医・総合診療医の重要性や働きがいを感じてもらっている。

雲南市医療者の学術的活動のサポート

①地域研究のサポートとエンパワメント：

学術的発表はモチベーションの高い医療者にとって、現在の彼らの仕事の質改善と共にキャリアアップに繋がると考えられる。現在、雲南市立病院での勤務または実習で、地域ケア科との接触があった医療者に対して、地域介入並びに論文作成の補助を行っている。その中で、地域ケア科医師、雲南市立病院看護師、地域医療実習で当院を訪れた研修医・医学生を中心としてプライマリ・ケア連合学会、国保地域医療学会での発表や院内雑誌への多数の論文投稿を行うことができた。

History and future perspective of the community care in Unnan City Hospital.

Ryuichi Ohta

Department of internal medicine, community care, department of regional general medicine, Unnan City Hospital
Correspondence: Ryuichi Ohta, MD, MHPE, Department of internal medicine, community care, Unnan City Hospital [96-1
Daito-cho Iida, Unnan, Shimane 699-1221, JAPAN]
Telephone: 0854-47-7500 / Fax: 0854-47-7501
E-mail: hospital-soumu@city.unnan.shimane.jp